

まちの話題



火の神の誕生と五穀起源神話の舞

高原の縄文王国収穫祭

10月24日に井戸尻史跡公園で第3回目の「高原の縄文王国収穫祭」が行われました。収穫祭は藤内遺跡の出土品が国の重要文化財に指定されたことをうけ、縄文時代の生活習慣を体感し、天地の神に感謝する意味を含めて、一昨年から行われ、今年は考古館建館30周年にもあたり、400人以上の方が来場しました。

縄文の祭式を再現した「くく舞」や「火の神の誕生と五穀起源神話の舞」は土器の文様や古代神話をもとにした舞で語り手と土笛の音色が調和し、神秘的な雰囲気醸し出していました。

また、井戸尻縄文の里振興会の皆さんが地元の野菜を格安で販売したため、高価な野菜が飛ぶように売れました。

お昼には古代米や豚汁、餅などが無料で配布され、まさしく収穫を祝い、ありがたく頂戴しました。

その他にもハスの実の首飾り、土鈴作り、土器の野焼き、などが行われ、一日ゆっくり縄文時代を満喫しました。



土器の野焼き



土器で煮た粥 かなかの味でした
かゆ



くく舞

講師の渡辺 実さん



地震防災講演会

諏訪広域連合防災講演会

11月14日に諏訪地方6市町村と諏訪広域連合の共催で、地震防災講演会をコミュニティ・プラザで開催しました。

講師の渡辺実さんは、21世紀前半は、海洋性の地震や内陸性の地震の再来周期にあたっている。阪神大震災以後、活断層の動きが注目されるようになり、全国で98本の主な活断層について調査しているが、その中でも県内を走る活断層「糸魚川 静岡構造線」については、30年以内の地震の発生確率が14%と最も高い確率となっている。その上、地震の規模は、マグニチュード8クラスの直下型で、建物の耐震基準が改正された昭和56年以前に建てられた住宅では、既存不適格とされる建物が多く、県内の多くの建物が倒壊し、大量の被災者の発生が見込まれている。

備えることにより被害を減らす「減災」のためのポイントとして、諏訪地方の地震危険度を正しく認識する 自分の命・企業は自分で守るため、3日間の備蓄をする 自立できるまちづくりのため孤立化対策をする 倒壊しない家づくりのため耐震強化をする 災害情報で命を守るため、災害時の電話の使い方を知る、以上の5項目を紹介いただきました。